

日露青年交流事業（被災地青少年のロシア派遣について）



8月18日（木）から25日（木）まで、日露青年交流事業として、宮城県及び岩手県の中高生33名（関係者を含め計39名）がウラジオストク郊外の保養施設「オケアン」に滞在し、ロシアの子供達と交流しました。この交流事業は、スヴェトラナ・メドヴェージェヴァ・ロシア大統領夫人（Mrs. Svetlana Medvedeva, spouse of President of Russia）のイニシアティブによるロシア政府の提案を受けて行われました。

滞在中、「オケアン」でロシアの遊びや文化を学んだり、当地初中等教育機関を訪問して、日本語を勉強しているロシアの子供達に習字を教えたりしました。23日に開催された「日本紹介の夕べ」では派遣された日本の中高生が吹奏楽コンサート、震災にかかるプレゼンテーション、よさこいソーラン節を披露し、ロシアの子供達の喝采を浴びました。

（参考）

日露青年交流事業は、日露間の国民レベルの人的交流を抜本的に拡大することを目的として1999年に締結された日露青年交流協定に基づき行われている事業。日露青年交流事業は、（1）短期のロシア人青年の招聘及び日本人青年の派遣、（2）ロシアの大学への日本語教師の派遣、（3）日本及びロシアの若手研究者へのフェローシップの供与の3つを主な事業としており、1999年以来、2011年7月末までに約3,000名の交流が行われている。

